

# 日新

学校教育目標

美しい心

輝く知性

たくましい体



都留第二中学校 学校だより

第 6 号

令和7年9月25日(木)

文責 校長



<石花海祭 9月11日午後 開祭式 12日午前 文化の部 13日午前 体育の部 午後 閉祭式>



## 本気で臨んだ「第58回 石花海祭 (せのうみさい)」 ～これぞ二中生～

閉祭式、生徒会長の「これで石花海祭の閉祭を宣言します」の一言には、達成感と充実感がぎゅーと詰まっていた。全校生徒の「本気」を結集した、大成功の石花海祭でした。

9月11日(木)の開祭式で開幕した「第58回石花海祭」、暑さ対策のため、文化の部と体育の部を午前中の2日間に設定し、「Plus Ultra ～本気でかかっちゃダメですか～」のテーマのもと、生徒・教職員全員が最大の力を発揮し、記憶に残る一日をつくりあげました。キーワードである「本気」をたくさん感じました。取組期間中、暑さや台風の影響を受けながらも練習時間や方法を工夫し全校で着実に練習や準備を進めてきました。

今年の“注目”は「全校合唱(群青)」と「全校応援」の全校2部作。伝統である「合唱と応援」を堂々と、そして、見事に二中生は完成させました。渾身の歌声と一糸乱れぬ演技は、参観の方々からも高い評価をいただきました。

「文化の部」では、ブロックごとの学級旗紹介や決意表明を皮切りに、学年合唱を含む質の高い各学年発表や展示の数々、吹奏楽部発表や有志合唱団発表、更にはISSプロジェクトメンバーと生徒会執行部によるISS活動報告と平和宣言、いずれも見事でした。

「体育の部」では、安全や健康を重視したルールのもと、大縄跳びやリレーなどの競技で熱戦が展開されました。教職員によるデモンストレーションリレーも行われ、会場を沸かせました。当日の朝は雨模様で微妙な状況でしたが、競技が始まると天候は回復し気温も高くなく、よい状態で実施することができました。3名のブロック長さんのリーダーシップも素晴らしかったです。

生徒会執行部や3年生が先頭に立ち全校生徒と全教職員が本気でかかった「石花海祭」、テーマの通り躍進・進化を遂げ、「これぞ二中」を十分にアピールした石花海祭でした。

## 「創立 60 周年記念式典」

～ これまでとこれからの都留二中 ～

お知らせしてきたように、本校は今年創立60周年を迎えました。その記念式典を9月23日に挙行了しました。多くの来賓・保護者・一般参加の方々、全校生徒・教職員で60周年を祝いました。



式典では、学校長式辞や来賓の方々からの祝辞のあと、60年を振り返るスライドの上映。創立当時の画像や、本校に関わりのある方々へのインタビューなどで構成された大変見応えのある“永久保存版”です。そして、全校生徒が「全校合唱」「全校応援」を披露。式典に華を添えました。最後に参加者全員で「都留第二中学校校歌」を声高らかに斉唱しました。

本校のこれまでの歴史と実績をしっかりと受け継ぎ、これからも校訓「日新」の精神を大切に、都留第二中学校は更なる発展を目指して歩み続けることをお誓い申し上げます。

## 校長室レポート

～ ところで「石花海」とは？ ～

本校の学園祭は「石花海（せのうみ）祭」です。校歌も「せのうみの 緑にはえて」で始まります。この「石花海（せのうみ）」とはどのような意味でしょうか・・・。

辞書には2つ意味がありました。1つ目は「駿河湾西側の水深100m未満の浅堆(せんたい)。」2つ目は「富士北麓にあった湖の名。貞観6年(864年)富士山の噴火で、西湖、精進湖に分断された」というものでした。従って、校歌でも「雪をおく 久遠の峰よ 大富士は・・・」と続くことから、2つ目の「富士北麓の湖の呼称であると考えられます。また、晴れた日には学校からも霊峰富士を仰ぐことができます。その富士が私たちに対して「高き理想」や「輝く未来」の実現を期待しているということです。遙か十数キロ先の富士や石花海から続く都留の地で、作詞者である深澤泉先生(当時の桂高校校長)は、その願いを校歌に託されたのだと思います。

58年前に本校の学園祭が「石花海祭」と名づけられたのも、同様の願いがあったに違いありません。「校歌」や「せのうみ」に込められた思いを、私たちはこれからも大切にしていきます。

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

～本校の傾向は～

4月中旬、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。対象は全国の中学校3年生です。本校の3年生も国語・数学・理科・質問調査の各調査を受けました。本校の調査結果の概要をお伝えします。<4月時点の調査であるため、あくまでも参考資料>

\*国語・数学・理科：・共通して、問題の意図を理解して解答する力や、思考力が低い傾向。  
・特に数学は、数と式・データの活用など、全体的に正答率が低い。

\*質問調査(抜粋)：・「自分には将来の夢がある」の肯定的回答は、全国・県と比較して高い。  
・「地域や社会の役に立ちたい」の肯定的回答は、全国・県と比べて高い。  
・ICTを効果的に活用する機会が少ない。(授業でも機会を増やします)  
・学習時間が大きく不足。反面、スマートフォンやゲーム使用の時間が非常に多い。

